

三井物産環境基金 2011年度 一般助成「活動助成」 助成案件一覧

分野	団体名 (所在地)	代表者	案件名	案件概要	助成期間	申請金額 (千円)
気候変動	特定非営利活動法人環境経営学会 (東京都)	理事 後藤 敏彦	海士町におけるエネルギー自給の研究ならびに実施推進活動	再生可能エネルギーの利用技術の発展とこれの基幹の利用の実現には包括的な理論研究と市町村もしくは島等でコンパクトな実験的な実践活動が両輪とならねばならない。鳥根県海士町でのエネルギー自給化に向けての道筋を明らかにするためのフィージビリティ・スタディを行う。具体的には、エネルギー・ミックス等々について東京での研究会活動、現地調査・調整、投資組合設立の調査・研究を重ね、三年以内に道筋の青写真化と小規模実験をする。	3年	12,600
水産資源	特定非営利活動法人地域生物資源研究所 (静岡県)	理事長 久保 靖	浜名湖周辺廃養鰻池跡地の環境修復と放置施設の活用による新しい水産養殖	荒廃状態で放置されている浜名湖周辺養鰻池を活用して、浜名湖周辺一体の環境修復を行うことを目的として、北限のマングローブを植栽し、耐寒株を選別育成して汽水域緑化に用い、水質と底質を改善する。同時に、まぼろしの存在になりつつあるトゲノコギリガザミ(元来マングローブ干潟の生き物でありながら浜名湖に自棲)の養殖を行う。具体的には、マングローブ苗木とカニ種苗の生産および育成のために、廃養鰻ハウスを修復して利用し、環境保全と両立する水産養殖の推進等を目指す。	3年	4,589
表土森林	特定非営利活動法人山村集落再生塾 (東京都)	理事長 藤木 良明	水引集落における茅の安定供給と茅場の整備、ならびに“山桜の森”創設	福島県南会津町水引集落には7軒の茅葺き民家が群存するが、その維持に公的支援はなく、かかる事態は貴重な山村の原風景を喪失するだけではなく、環境破壊につながる。そこで、屋根の葺き替え用の茅場の整備と耕作放棄された田圃に山桜を植林することで、集落周縁部の表土の保全を図るとともに集落の持続的な再生を意図する。茅屋根を維持するためには材料として茅の持続的な供給が必要であるため、地域住民と都市住民の協働により茅刈りの持続的なシステム構築を図る。併せて、集落の外縁部の耕作放棄地に山桜、こぶしを植樹し、耕作放棄された表土の保全を図る。山桜の植樹には地元中学生の参加を呼びかける。	3年	3,930
表土森林	特定非営利活動法人道普請人 (京都府)	理事長 木村 亮	ケニア半乾燥地で行う地域ぐるみで取り組む環境改善活動～自らの暮らしの向上を目指す農と工からのアプローチ～	間降水量が600mm以下の半乾燥地の小規模農民コミュニティを対象に、地域に適した農作物(品種)の展示・栽培試験を通して農民に安定的な食料生産の情報普及すると共に、農村の簡易インフラ(ため池等)を整備し雨水を確保、樹木苗の生産を試みる。半乾燥地の環境の回復及び安定的な食糧生産のため、農(乾燥に強い作物を栽培し(6ヶ所)地域に適した品種の選定)と工(限られた降雨を効率的に確保する小規模なため池(2ヶ所)を設置しその効果を検証)からのアプローチを試みる。また、地域の長老の話の児童へ語り聞かせる等の環境教育授業を実施し、コミュニティ全体の環境に対する意識の向上を図る。畑や家の敷地などに植林することによって緑化を進める。	1年	3,254
生物多様性	財団法人山階鳥類研究所 (千葉県)	研究員 出口 智広	小笠原諸島におけるアホウドリ繁殖地の復元と長期的保全に向けた取り組み	これまで発展させた技術を学術的に確立し一般化することを目的に、智島でアホウドリの雛を飼育し、その成果を国際学会、学術雑誌で発表する。加えて、チャタム諸島で実施予定の近縁種の保護活動を指導する。加えて、本種が地域の大切な財産となりえるよう、小笠原の地元住民に向けた教育・情報発信を積極的に行い、地元住民主体の活動が展開される状況を作るため、アホウドリと海の保全に関するレクチャーを、小笠原島内、定期船、観光客船で実施し、智島でのモニター調査と、長期的に成功している他の保護活動への参加を通じて、保護と持続的利用を共存させる仕組みを検討する。	3年	18,170

分野	団体名 (所在地)	代表者	案件名	案件概要	助成期間	申請金額 (千円)
生物多様性	特定非営利活動法人シニア自然大 学校 地域組織 奈良・人と自然の会 (奈良県)	会長 阿部 和生	市街地に広がる里山の整備・活用	古い歴史と文化を維持してきた[里地自然地域]を次の世代に引き継いでいく為に、放置荒廃を見逃さず手を入れ復活した市街地の里山を、現代に生かすことを目的とする。具体的には、奈良市佐紀町・奈良坂町・法華寺町・法蓮町に亘る17haを対象地とし、里山林保全地区、ならやま彩りの森、ならやま自然保護区、佐保自然の森に4区分し性格を分け特色ある「現代に生かされた里山」を再構築する。	3年	4,000
持続可能社会	特定非営利活動法人土佐の森・救援隊 (高知県)	副理事長、 事務局長 中嶋 健造	自伐林業方式の確立と全国普及による、林業雇用50万人創造事業 ～自伐林業スタイルを確立させ、高知県J-VER方式の活用を付加した全国展開～	森林・林業再生、農山村再生に有効である「自伐林業」方式を、現場に即した具体的モデル事例として確立させることを目指す。具体的には、自伐林業方式を現場の山林所有状況等に合わせ、各地域にて実際に実施することで確立させる。実施協力地域に対しては、説明会、コーディネート、技術研修会を土佐の森で実施する。また、高知県J-VER方式の利用可能性の検証を行い、自伐林業経営の安定化を目指す。更には、この自伐林業方式を全国展開し、林業雇用全国50万人を目指す。	3年	11,095
持続可能社会	特定非営利活動法人岩手子ども環境研究所 (岩手県)	理事長 吉成 信夫	持続可能な地域モデル「見える化」プロジェクト	「森と風のがっこう」では、これまでエネルギーやいのちのつながりが感じられる施設整備やプログラムの提供を行ってきた。次の段階として、そのつながりがこれまで以上に具体的に見えて理解できるサイン、スペースなどを創り出し、見せ方や伝え方のデザインングに注力し持続可能な地域モデルの見える化を図っていくことを目標とし、持続可能な地域モデルの発信を推し進め、持続可能な社会づくりの一助とする。 自然エネルギーテーマパーク化が進むことでの来訪者増加や、循環型生活の学びの場であることが認知され、研修や団体利用の増加が期待される。	1年	4,608
持続可能社会	特定非営利活動法人中池見ねっと (福井県)	事務局長 増田 茂	中池見湿地における希少動植物との共生を目指した市民参加のミニ田んぼ活動	福井県敦賀市の中池見湿地は、生物多様性に富む重要湿地であるが、水田耕作が放棄されて久しく、人の手による管理が不足しており、外来生物の侵入も目立っている。市民参加による小区画のミニ田んぼ活動を、湧水の流れるホットスポット周辺で実施し、少量ではあるが無農薬の米を収穫することを目標に自然への働きかけを強め、希少な湿性植物やホトケドジョウ・ヘイケボタル・アキアカネなどと人間が共生する地域づくりに貢献する。地元農家による生物多様性保全を目指した稲作への意欲が高まり、国定公園の植生復元施設としての保護と利用の公園計画の実質的な内実をつくる先行的な実践例となることを目指す。	3年	3,000

合 計： 9件

65,246千円